

## 静岡DWA T支部活動検討会 意見交換「平時の取り組みについて」 西部支部の記録

- ・西部地域だけでも広いので、まずは浜松・中東遠それぞれで（DWAT のこと以外でも情報交換できるような）顔の見える関係づくり
- ・日頃から気軽にやりとりできる連絡手段があるとよい  
例：近隣地域でのグループライン
- ・事業所内の登録員を増やすことで、DWAT の活動をしやすい職場にする
- ・養成研修や移送支援用具の使い方を復習する
- ・移送支援用具の貸与を受けている施設を拠点に勉強会
- ・養成研修にてファシリテーター等を努め、教える立場になることで学びを深める
- ・訓練や研修のお知らせにある程度強制力があると、出席しやすい
- ・DWAT の活動は敷居が高いイメージ。肩肘張らずに気軽に参加できるとよい

### <アンケートより>

- ・まずは顔合わせと情報共有をどのような形で進めるのか、支部のコアメンバーを築いていくことでしょうか
- ・圏域の登録員と話して課題を見つけ、その課題を解決するような取り組みをしたい
- ・いざ、災害が起きた時に知っておいたほうが良い知識・身につけておいた方がよい技術があれば訓練の中で身につけたい。
- ・避難所でのコロナ対策はどうすべきかを知りたい。
- ・地域での防災訓練の参加や移送用具の紹介（他施設や地域の方々へ）をしていけたら参加してみたいです。少しでも DWAT のことを知っていただけたら嬉しいです。
- ・圏域でのネットワークづくり
- ・移送支援用具の取扱いの復習会
- ・支部の人達と集まって、実際に行っていきたいことを話し合えたらと思っています。

## 静岡DWA T支部活動検討会 意見交換「平時の取り組みについて」 東部支部の記録

### ○富士

- ・富士の防災イベント「ふじBousai2021」(11月?)へブースを出展する
- ・施設間交流の促進

### ○熱海伊東

- ・検討会に参加した施設を中心に交流を図りつつ、他施設への啓発を行い仲間を増やす

### ○駿東田方&賀茂

- ・東部支部の細分化
- ・チャットワークの活用等、連絡の取りやすい体制づくり
- ・施設同士のつながりづくり
- ・ZOOM等活用し、月1での定例会議  
→現場に即した参加しやすい開催時間を要検討
- ・避難所や福祉避難所に派遣されると直接処遇の人手としてカウントされてしまうのではないかと。DWA Tの活動を正しく理解してもらう。
- ・発災直後の派遣調整等、情報伝達の訓練
- ・地域防災計画への参画
- ・地域の民生委員との情報共有
- ・登録員が事業種別・職種の専門性を活かして講師となる、学び合いの場
- ・所属法人、事業所内での理解促進
- ・連絡手段の整備
- ・DWA T派遣やその他被災地支援の経験者が講師となる勉強会

### <アンケートより>

- ・定期的な顔合わせのできる研修や会議ができればと思います。
- ・施設間で交流をもてたらありがたいです。
- ・実際に現地に行ったとき「平時に知り得て良かった!」と思えることに、関係性を深めながら取り組んでいきたい。
- ・実際どのような活動をしているかを、訓練などを通じて啓発していきたい。
- ・保育、障がい、高齢それぞれの登録員が多職種の登録員に専門職として対人支援で気をつけているところなどを共有する登録員が講師となる研修。  
(実際現地で活動する時にそれぞれ専門職の考えを理解するため)
- ・基礎研修(例:福祉避難所とは?広域避難所、一時避難所、一次避難所の違いとは?  
行政の役割とは?災害時要支援者リストとは?)  
(実際に現地で基礎を理解していれば現地の住民の後方支援に役立てるのではないかと。)
- ・オリジナルチラシの発行 ※支部広報委員の設置
- ・行政や福祉団体、学校に対してアクションをしていくためのツール
- ・会長を補佐する役員のしくみ(会長と研修担当役員、広報役員、会計役員など)

- 同地域の同業種ではなかなか聞きにくいことも、異業態の方だと聞きやすかったりするので、もう少し小さい地域や地域を越えた同業種などで、密に連絡が取れたりするといいなと思います。実際の現場に出る時も、顔見知りがいるかいないかで、気持ちも違うと思うので。
- 自治会や地域の民生委員とのかかわり方などどのように取り組んでいるのかななどを研修で学びたい。
- 福祉避難所の設営などのロールプレイを行いたい。
- 実際に DWAT で派遣され活動した小山町社会福祉協議会の江藤さんから具体的な体験談を聴いてみたいと思いました。
- 正直言いますと、福祉業界は慢性的な人材不足で毎日汲々と取り組んでおり、災害対策や災害支援に興味ややる気があっても、そちらに注力することが難しいです。事業所の管理者であっても、忙しい現場から離れ研修や災害派遣に出向いたりという事に、一般職員からの理解を得られ難い状況です。

## 静岡DWA T支部活動検討会 意見交換「平時の取り組みについて」 中部支部の記録

- ・実態としては施設の理解を得にくい…
  - ①登録員がいるメリット（例：施設の防災強化につながる、公益的な取組のひとつ）を発信・明文化する
  - ②支部活動を活発化させる
  - ③横のつながりをつくる
- ・「DWAT 登録員所属施設」だとわかる、県のお墨付きシールを玄関に貼る
- ・普段は圏域で活動し、年数回定期的に支部で集まる
- ・まずは顔見知りを増やして、活動への誘い合いをしやすいにする
- ・施設の訓練に参加し合う
- ・支部での訓練実施
- ・児童福祉施設職員の専門性を活かして、子どもを巻き込んだ防災訓練の実施
- ・女性登録員を増やす
- ・研修で学んだことや移送支援用具の扱い方の復習
- ・名簿の管理体制を整え、支部内にどんな登録員がいるか知る
- ・ケアマネジメントの段階で、要配慮者のリスクを把握しリスクを排除していく
- ・地域の防災訓練への参加等を通して横のつながりを作っていく

### <アンケートより>

- ・顔見知りの関係が進むように定期的に会合をする。登録員のいない施設へDWATを周知していく。
- ・支部内や圏域の登録員同士の横の繋がりを、具体的にどのように構築していくか。年に1回程度の座学の集合研修では、横の繋がりはできないので、年数回（登録員負担を考えると年3回程度）は、支部・圏域のDWAT登録員が交わる機会が必要ではないか。
- ・DWAT登録員が全く不在の市町施設へ、支部内登録員同士が協力して登録員勧誘を実施してはどうか。
- ・DWATの啓発（例：FaceBook）
- ・負担とにならない形で参加できるものは参加してつながっていく。
- ・定期的な登録員同士の支部交流会等。